

リヤド観光のための交通手段



日本料理 YOKARI 総料理長 佐藤 たき

—10月17日夜、リヤド郊外のRiyad BoulevardでRiyadh Seasonが開幕し60万人を超える観客が花火ショーやパレードを楽しんだ。—

Riyadh Season 会期中に私の勤める日本食レストランが日本文化イベントの特設会場で飲食ブースを担当させていただいたのは11月中旬。日本からお越しになった多くの女性関係者の方々が体全体を覆う黒い衣装「アバヤ」を着ていない姿をお見かけいたしました。その答えは

—9月28日より49カ国を対象にツーリスト・ビザの申請・発給が開始される。また外国人女性の服装コードも緩和されアバヤ着用は不要で modest clothing で良いことになった。—

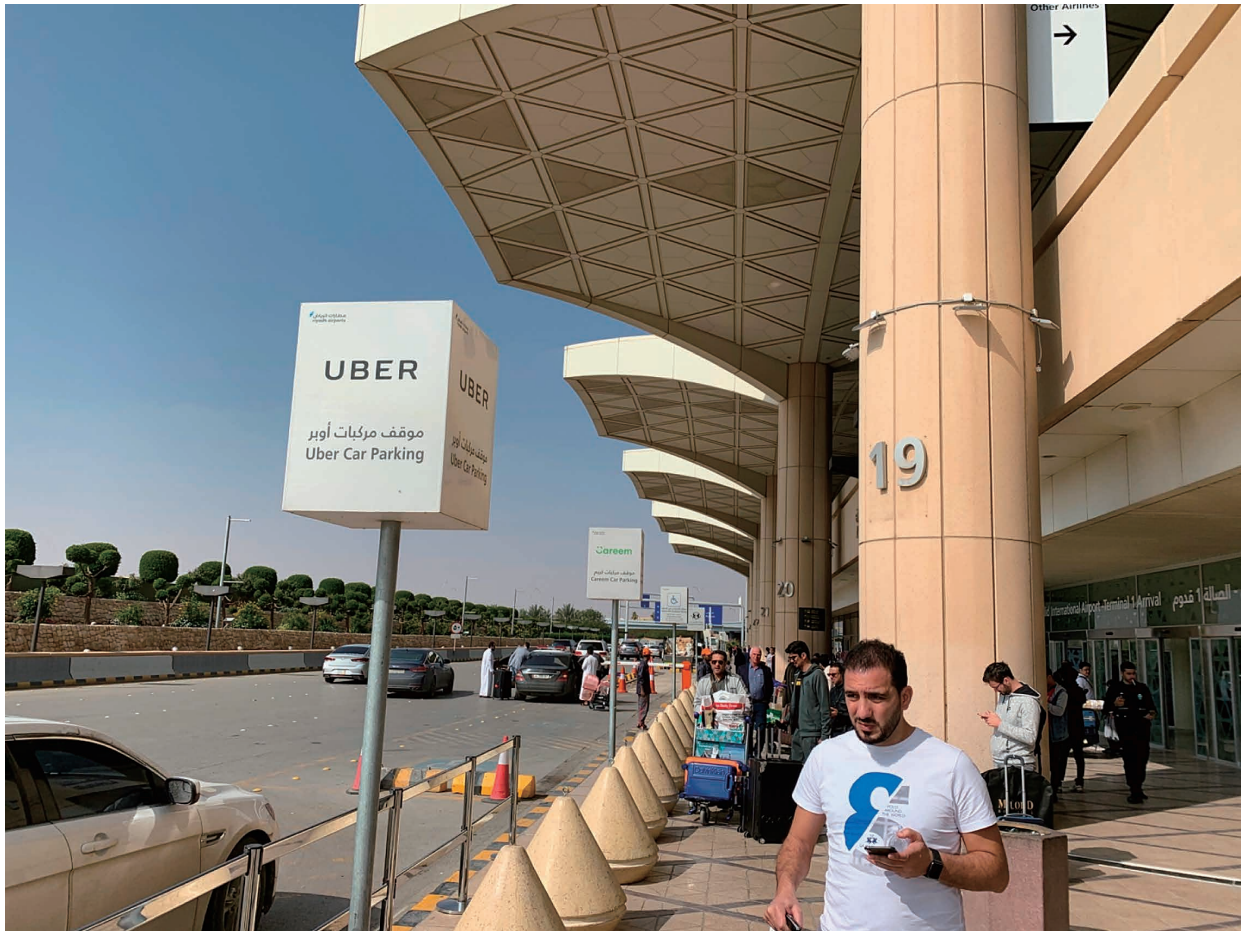
です。皆様ご存知のようにサウジアラビアは今、どんどん変わっています。そして日本から訪れる方々も増えています。けれども、サウジアラビアの暮らし方について注目される方はまだそう多くありません。やはり、観光ビザやエンターテイメントの解禁などの行政の動向にスポットライトは当たりがち。そんな現状に一石を投じたく、飛行機がリヤドの国際空港に着陸した後、どのように街に出ているのかといった市民目線の情報を共有させていただくことで、サウジアラビアに住む人々との距離を縮めていただけたらと、配信5年目を迎える中東協力センターSaudiBizNewsの記事より心に留まったものを書き記します。

■Uber と Careem

サウジアラビア王国・リヤドは首都だけあって広いです。東京都の約半分の大きさとなるので、端から端まで自動車で移動しようとするで一時間はかかります。

そんなリヤドへ日本人が個人で訪れ、催し物視察や買い物などの際に、私がお勧めできる交通機関は今のところ配車サービス形態企業のUberとCareemのみと言えるでしょう。

Uber 及び Careem の空港配車の特徴は、インターネット上でのみ予約管理のできる新しい交通サービスでありながら、空港内到着ロビーに直結した専用の乗り場があること。疲労が溜まる飛行機移動をする上で私が大切にしている「快適な乗継ぎ」に通じるところ



キング・カリード国際空港到着ゲート出口前のUber専用乗り場：筆者撮影

があり、私はリヤドより飛行機を利用する際は必ず手配をいたします。

キング・カリード国際空港からダウンタウンまで約100SR（約2,900円）と日本の成田空港から都内主要駅間の特別特急とほぼ同じ料金帯で移動でき、一応エアコンが効いている上、ドライバーにもバラつきがあるが英語が一応通じ、ドライバーのスマートフォン上に経路が自動表示されるため、外国語での目的地説明に苦労することは殆どありません。リヤドに慣れていない人にとっては今現在、一番使用頻度の高い交通手段となるのではないのでしょうか。

ちなみに私は日本食レストランの料理長ですから、お客様にお料理を提供しています。主となるサウジ人顧客の人柄、アレルギーや味の嗜好性を理解した上で、私自身が納得できる出来栄えの献立を作っているため、新しい一品を創作するには通常、リヤド市内の外食店舗を食べ歩き、食のリサーチをします。駐車場のスペースが確保できない店舗などへは自家用車ではなく、Uberなどを使って訪問することもありました。

Uber及びCareemは世界的にも新しいサービス形態ですので、私を含め観光客、女性、そして若いサウジ人世代には大活躍をしています。昔からリヤドで生活している庶民からすれば少々難解な選択肢のようです。リヤド庶民にとって一番馴染みのある交通手段としてのタクシーが昔から存在しているからでしょう。

■公共タクシー

—今年の9月より、Uber Saudi Arabiaは、中東湾岸諸国で初めてUberアプリを使用したUber Taxiサービスをサウジアラビア国内で始めた。—

公共タクシー会社所属の車も一時的に空車となった際に、ドライバー個人が所有するスマートフォンのUber予約管理システムを通じて顧客を得ることができるようになりました。

これにより、Uberの通常料金より2割程度安い配車が可能となり、目的地説明も容易になるのですが、私は必要最低限の利用に留めます。なぜなら今までのリヤドの公共タクシーは「快適ではない」からです。

白いボディで車上に「TAXI」と書かれた電気ボード、街中でもよく見つけることができるタクシーのドライバー職はパキスタンやバングラディシュからの出稼ぎ労働者がほとんどで、公用語はアラビア語のため英語の会話が成り立たない。彼らの労働環境は決して良いとは言えず、清潔な車内環境が保たれることはなく、ドライバーの体臭などが気になることも多々あり、そのため私の知人を含む多くの欧米系駐在員はUberなど別の快適な交通手段を利用する傾向にありました。そんな私も四年目のリヤド生活でタクシーを使ったのは過去一度のみ。



オラーヤ通りで休憩中の公共タクシー・ドライバー：筆者撮影

そして、リヤドは運転事情が本当に酷い。交通ルールはあってないようなもので常に事故と向かい合わせ、タクシーが起こす交通事故現場もよく見かけます。リヤドは地味に広く、たとえ10分単位の移動にしても頻繁に交通渋滞に出遭うので、出来れば世界都市と同等の安定した運搬能力を持つ交通機関を利用したいと誰もが思うのは当然のことです。私は今、2020年に一部開通を見込んでいるリヤドメトロと路線バスがその人々の願いを叶えてくれるだろうと期待しています。

■リヤドメトロ

—今年1～8月のサウジアラビアを訪れた観光客は、前年同期比11%増加するとともに支出額も12%増加し、773億リヤルだったことを Tourism Information and Research Center が発表した。—

—閣僚会議はサウジアラビア通貨庁（SAMA）の要請を受け、キャッシュレス社会の決済システムなど金融インフラの整備と発展のために“Saudi Payments Company”の創設を承認した。ビジョン2030における経済改革の一つにキャッシュレス決済率の引上げが挙げられており、2016年の16%から2020年は28%に、2030年には70%へ引上げることを目標としている。—



アブドゥラアジズ通りに建設中のメトロ駅：筆者撮影

今後、観光客にとってリヤドで一番使いやすい交通手段はリヤドメトロになるでしょう。観光名所に最寄りの駅ができ、空港ともリンクする、そして料金体系も解りやすい。リヤド名物の渋滞知らずとなるので、移動時間が読め、そしてリヤドは暑く、体力を消耗する土地柄、冷房がちゃんと効いた交通機関での移動は必須です。そして現地通貨を持たなくともキャッシュレス決済ができるということを知れば、観光客は安心して利用するようになると思います。

—サウジアラビアの遺跡観光は2030年までにGDPに占める観光産業の比率を現在の3%から10%に増加するとともに、観光客数を1800万人から1億人に増やすことを目標としている。—

メトロというリヤドの街の生活の楽しさを観光客も体験できる交通機関を、まもなく利用できるようになるということに感謝するとともに、市民の生活をも助ける、そう、何十年先まで運用され続けてもらうことを願っています。

■路線バス

メトロだけで広いリヤドの街の全てを補うことは難しいです。では、何か他の交通手段はないのか。リヤドではメトロと同様に「路線バス」の建設も着々と進んでいます。



タリア通りに建設中の連結タイプの路線バス停：筆者撮影

—10月8日開催の閣僚会議で、サウジ国内主要都市における公共交通ネットワーク整備の第1段階としてのバス運行サービスを承認した。—

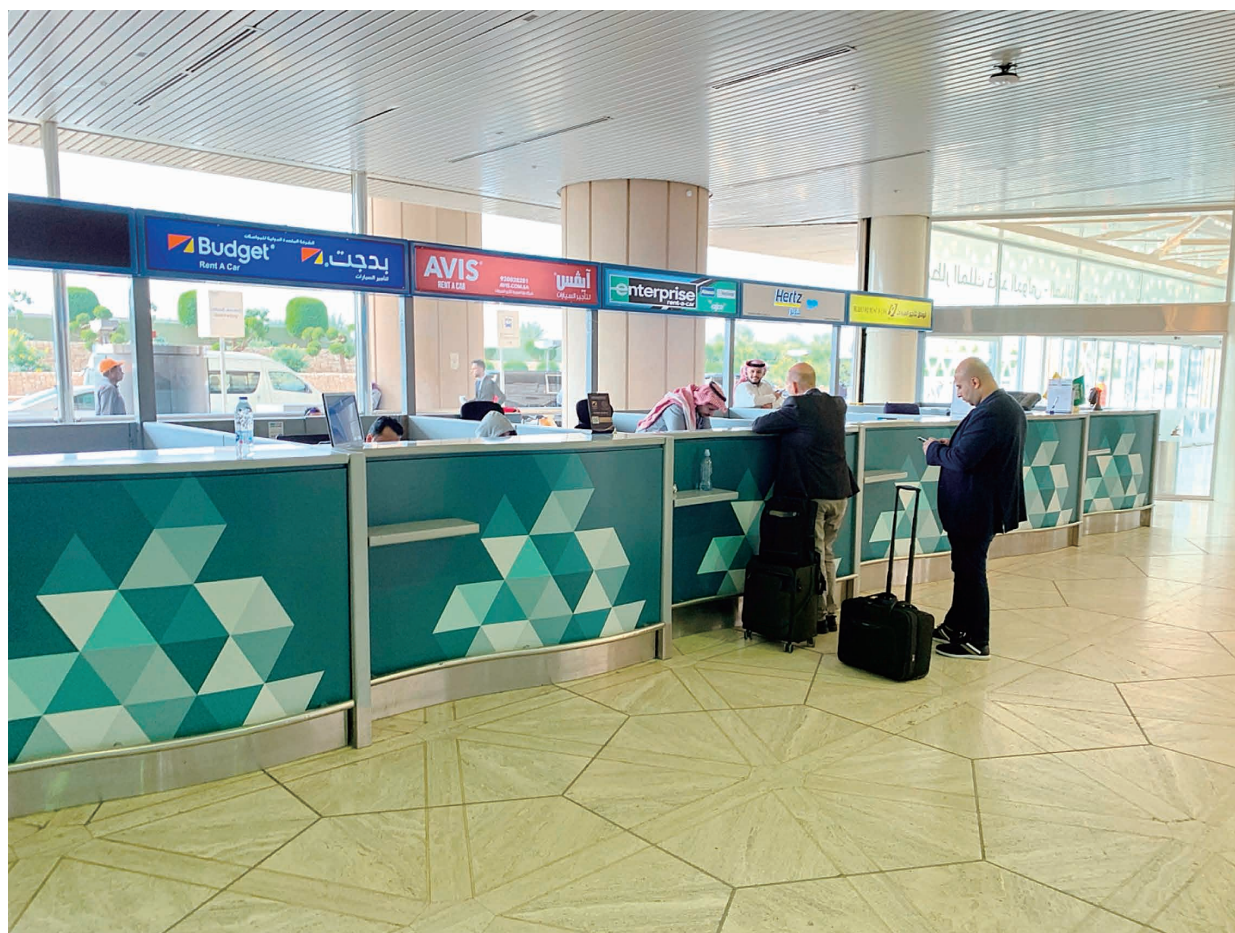
サウジには元々公共バスがあります。しかし路線や乗降手段が不明瞭で、主な車体となる中型マイクロバス・タイプはそのどれもが古く、アラブ圏や南アジア圏の市民のみが交通手段として利用していました。現在建設中の新しい路線バスはそこまで難関な交通手段にはならないでしょう。

新しい路線バスは日本で見られるような一般的な大型路線バスの形状のものから連結タイプまで計画されているようで、おそらく隣国アラブ首長国連邦の運行バスに近い運用システムとなり、前側の運転手周辺は女性専用席になる予定です。

■レンタカー

リヤドの国際空港の到着ロビーを出ますと、目の前にレンタカー会社のサービスカウンターが現れます。主に利用される顧客はアラビア語を公用語とする周辺国の方々のです。

私はアラビア語が話せませんが、過去にリヤドの交通機関を使いこなす為だけにアラビア語を勉強しようかと画策したこともあります。それはなぜか。自家用車で街を運転する



キング・カリード国際空港到着ゲート前のレンタカー受付カウンター：筆者撮影

中で、英語を話せない交通整理をする警察官や、ガソリンスタンド店員を多く見かけ、トラブルが起きるのではないかとドキドキすることが赴任当初にあったからです。結局、その語学習得プランはお預けになったままですが、リヤドの交通手段という選択肢の中で、レンタカーは未だアラビア語が話せる上級者向けのものであると私は考えています。

このように、リヤドにも公共交通ネットワークがどんどん整備されはじめています。では「いつ便利な新交通機関は運行するの？」と思う方がいるかもしれません。これが今の最大のサウジアラビアの問題です。建設作業風景を外から見て想像がつけばいいのですが、そういうわけにはいかず、一般市民も実は全く情報を把握していないのが現状です。

—今年中に完成予定のRiyadh Metroについて、リヤドから40km郊外で建設が進められているエンターテイメント・シティ“Qiddiya”までの運行延長を検討中であることを、Qiddiya Investment CompanyのCEOが明らかにした。計画の詳細（工期、予算など）は不明。—

皆様にとっては、こっそり日本語で教えてくれる中東協力センターのSaudiBizNewsが、その疑問に対する一番手っ取り早い情報収集ツールなのかもしれません。

その答えを自分自身で見つけ出す間もなく、サウジアラビアに関する交通事情は日々更新されています。もし、今すぐ最新情報が欲しいという方は…、Google先生に頼るしかありませんね。